

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	運営者 管理者 職員で共同で作りあげた	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	支援をしていく上での基本にしている	対応に困ったときなどに 基本に戻るところとして考えている
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	法人としてホームページを作成し運営理念の啓発をしている。ボランティア、実習生の受け入れ、見学者、運営促進委員会などで その都度ホームの役割や理念を伝えているも 地域住民にまで浸透していない。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホームは、クリニックと老人保健施設の一番奥に立地しており 目に付きにくい所でもあるが、散歩や買い物等に頻繁に出かける機会を利用して積極的に挨拶を交わしている。	新興住宅地ではあるも自然な形での交流が出来るように望んでいる
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	運営促進委員会を通して少しずつ地域の中に入ってけるように努力したい	住所地と住居地の管轄に捉われずに自然な形で交流をしていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営促進委員会を通して話し合うもまだ 地域高齢者に対しての支援まで至っていない</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価内容及び結果を現場に落とし込むまでには時間がかかるも出来るところから取り組んでいる</p>	<p>評価内容を全て現場に落とし込むのは難しく入居者を中心に考え取り組んでいきたい</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年度から始まった2ヶ月に一度の運営促進委員会そのものに戸惑いがあったが これから具体的な意見がたくさん出ると思う</p>	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市との行き来はないも 電話での相談は行っている</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>ご家族と共に権利擁護や成年後見制度を利用しようとしたが、実際に活用するまでに至らなかった</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入居者の身体のチェックなど細心に行っており、あってはならない事と認識している</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書 契約書など入居時に十分な時間を使って説明し、同意を得ている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ボランティア 実習生 ご家族と接する機会を多く持つように努め気兼ねなく言える雰囲気を作っている。</p>	<p>苦情や意見があった時にはつたえて下さった事に感謝し、具体的に対処していくように全職員で考えていく</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に一度は行事予定を送付及び来所持には個々の職員により最近の様子や依頼、要望等話し合っている。</p>	<p>本人の願いや思いは職員が仲介役になり家族に伝える機会を設け、健康面での変化などは電話等を利用して詳細に伝えていく</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書 契約書などにホームの苦情相談窓口、国保連や市の行政窓口を表記している。家族会を開催し家族間の相互交を計りながら 意見、質問などを聞き改善すべき点は考慮し改善している。</p>	<p>苦情や意見があった時にはつたえて下さった事に感謝し、具体的に対処していくように全職員で考えていく。現在、管理者と家族との個人面談を取り組んでいる</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体ミーティングなどで全体の意見又は個人の意見の吸い上げを行っている。その時々の入居者の状況に応じて勤務時間帯の調整を行っている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態により 勤務時間の変更や追加を職員の話し合いの中で行っている</p>	<p>今後も状態の変化に柔軟に対応をしていく必要がでてくる</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は行っていない。馴染みの関係の大切さは痛感するが、離職についてはそれぞれの意向もあるので止める事はできない。離職時には利用者に説明し簡単な送別会をしている		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修マニュアルを作成したり、認知症介護実務者研修などの外部研修に積極的に参加できるように随時情報を公開し、希望があれば可能な限り参加できるようにしている		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区GH連絡会に参加し積極的に外部と情報交換を行う機会を設けている。法人内の老人保健施設との勉強会に参加する事もある		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生が充実している。狭い空間での人間関係の行き詰まりのないようお互いが話し合える機会を設けたい。また、外部との情報交換が行えるように研修に参加する機会をつくっていききたい		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	認知症介護実践研修の実習生の受け入れや参加又他研修の参加を積極的に取り入れ資格を取る機会を作っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人と向き合い不安なことや困っていること等、傾聴する時間を許す限りとり 家族と連携しながら対応している</p>	<p>家族の度々の来訪をお願いしながら共に観察し、困ってること心配なことを早期に洗い出していく</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>出来る限り時間を取り情報提供をすると共に家族会などお互いの立場での情報交換を行う場を設けている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要と思われる範囲に於いて色々な情報提供をしている</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居する前には時間の許す限り 気軽に遊びに来てもらい職員や他の入居者とのコミュニケーションが取れるように配慮している</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や裁縫、昔の出来事など知らない事や分からない事は気楽に聞ける時間と関係作りできるように努力している</p>	<p>業務に追われがちな中で、ゆっくりと向かい合う時間を作っていきたい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	外出、外泊、行事にも気軽に参加できるよう、又花壇や畑の手入れなども一緒に行ったりと共に過ごす時間をさりげなく設けている		家族に負担のかからない様に配慮するが、少しでも家族の出番が多くなるように支援していきたい
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者との家族との仲介役に努め ホームでの生活の様子などを話しながら家族の思いを聞く時間を設けている。家族会を開催し情報交換をする機会がある。		今後も継続してより良い関係作りが出来るよう情報交換をしていきたい
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ゆっくりと過ごせる場所の提供やお茶出しをし、来訪しやすい雰囲気作りを心掛けている。近場で今まで利用していた店などに行ったり、希望があればお墓参りにも一緒に行く事もある		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	「皆は？」と他者の所在を気にしたりする場面も多々あり共にいい関係作りが出来るように見守ったり仲介役に努めている。		洗濯干しや掃除、調理など協力してする場面も提供しながら、他入居者が困った時など職員を呼んだり手を貸したりする場面も数多く作っていく
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後必要があれば連絡を取り合っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族や他事業所から情報を収集し、本人の気持ちを汲み取る努力をしている</p>	<p>思いや意向は状況の変化により変わる事もあり、言葉だけに捉われず本意を見極めるような関係を作っていく</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時には本人、家族や他事業所から情報を収集し、入居後には本人の意向を時間を取りながら把握するように努めている</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>表情や話す調子を観察しながら傾聴に努めたり、共に行動した事など記録に残し職員間で情報交換を行い朝の申し送り時、月2回のミーティングで話し合っている</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族や他事業者等から情報収集を行い、本人や家族の意向も加えた介護計画を職員で話し合い作成している</p>	<p>全職員で観察と気づきを共有し、家族にも協力を得ながら作成していく</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的見直しを3ヶ月ごとに行っている。計画の達成状況や変化に応じて随時見直している。状況の変化が多い時には、計画が後からついて来る場面もある為、介護計画とは別に計画案としての書式を作成し、随時記入している</p>	<p>その場の状況の変化に沿った計画が立てられるように努力する</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録について全職員が情報交換が漏れなく出来るように日々模索している。個人の生活を24時間間記録している</p>		<p>記録に時間が掛かり過ぎない為の工夫をしていく</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>短期利用共同生活介護の指定を受けているがまだサービスを提供していない</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ボランティアによる趣味への参加や不穩時の駅員、警察の対応の依頼などその都度協力を得ている</p>		<p>今後も協力が得られるように地域や公共施設などへ挨拶回りを行う</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じて情報収集を行い家族等に必要な情報を提供している</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営促進委員会の参加や認定調査など必要なときには協力を得ている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		高齡化 認知症の進行に伴い情報交換をしていく
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	かかりつけ医は認知症の専門医ではないが助言はもっている	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	同敷地内の老人保健施設やクリニックの看護職員と情報交換をしている	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	サマリーの交換や入院時の状態などその都度情報収集に努めている	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化や終末期に関して家族会、運営促進委員会や個人面談などで話し合いの場を設けている。重度化になるにつれその都度家族と話し合い方向性を決めている。認知症介護と終末期の介護について両立出来るのかどうか職員間でしっかりと話し合っている	認知症介護と終末期介護について職員間でしっかりと話し合い、人の命の重さを尊びながら考えて生きたい
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度化や終末期に対して本人の気持ちを汲み取りながら考えていきたい。 まだ未熟な為、認知症介護と重度介護の両立が現在は難しい	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や他の事業所と生活の流れや状態など情報交換を行っている		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の誘導など何気ない言葉使いの中でも気をつけるように心がけている。個人情報の漏洩防止に関する契約を交わしている。		職員間での、入居者の排泄情報交換時の声のトーンに気配りが必要である。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できる限り生活の中で自己決定する場面が多く作れるよう努力している		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や習い事、外出などは自由参加としている。指示的な声掛けをする時もあるが最終的には本人に任せている		参加することが億劫になりつつある為、後で「よかった」と言ってもらえるようであれば声かけの工夫により参加を促したい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族と相談し、美容院は職員や家族と共に出かけたり、併設の老人保健施設の理容室を利用している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>火災予防の為喫煙場所は外に設けタバコ、ライターを希望時にはすぐ渡すようにしている。楽しみ事として 行事や外出時には希望があれば飲酒も自由である</p>
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>排泄記録から失禁、便秘等を把握し不快な思いをしないようにする</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>入浴が出来ない状態の時は足浴や清拭を行う。入浴拒否の時には言葉がけの工夫やタイミングを見計らって支援する</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>夜間に良質な睡眠が取れるように日中の活動を考えてみる</p>
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>役割や楽しみ事を共有することにより周りから必要とされている事を実感し居心地良い生活を送ってもらいたい</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全てホームで立替払いで対応しているが、外食や外出の機会には、自分で支払いをする場面も意図的に作っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中は、その時々に合わせて散歩・買い物・物療など活動を多くするように支援している		外出することが億劫になってきており、誘ってもなかなか外出に気が進まない入居者も見られるが、誘い方に工夫を重ねていきたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日外出などを計画し希望の場所に行ったり、家族と共に気軽に出かけられる雰囲気を作っている。個別での墓参りや外食、団体での外出を車や公共交通機関を使って出かけている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて仲介役になり支援をしている。状況によりホームの携帯電話を貸し出している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は日中解放し、面会時間（7：30～19：30）としている。ゆっくりと過ごしていただけるような場所の提供やお茶出し等をし、たまには職員や他の入居者とも気軽に会話できるような雰囲気を作っている		お客様を迎えるにあたって掃除やお茶だしなどを皆で受け入れるような雰囲気を作っていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング等でも取り上げ、身体拘束について再三話し合いを行い拘束に関する基礎知識は理解している。かかりつけ医とも相談しながら不必要な薬の服用を避けるようにしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を常時開錠してあり不穏時や散歩希望時には職員が尾行又は一緒に出かけている		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1F、2Fと職員の配置にリーダー制を取り入れ、リーダーは絶えず全体の把握を行いそれぞれの所在確認をしている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて居室に薬や洗剤を置いてあるが さりげないチェックは行っている		居室にある物が隣の入居者の物だったり、食べ残しが目のつかない所にあったりする為、さり気なく居室をチェックするが家族にも来所時には一緒にチェックしてもらっている
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとや事故報告書を記入することにより、状況の把握や再発防止について全職員で確認を行っている。転落防止の為に一本柵や夜間の転倒予防の為にポータブルトイレの設置など状況に応じて対応している		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルやSOS連絡網を整備し徹底しているつもりである。		定期的に応急処置 対応の仕方の勉強会を行う
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練の実施や運営促進委員会参加の避難訓練を行うが 地域の人々の協力が得られるような働きかけまでには至っていない		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常生活を営んでいく上でリスクが伴うことを日頃から家族とコミュニケーションを取りながら話していきたい		家族会などを通して全体での話し合いの中や個別にその時々等でも話をしていかなければと思う
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化が見られた場合、受診が必要かどうかを見極めながら様子観察、記録、申し送りを行う。必要であれば早急に受診して、その後も記録、申し送りと行い情報を共有していく		体調の変化異変を見逃さないよう観察、記録、相談し適切な対応が出来るよう努力していきたい
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に処方内容を記載したファイルを作り、誤薬のないように朝、昼、夜など色分けしている。服薬内容、効能などを一覧表にし全職員が把握できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため水分摂取に努めている。排泄チェック表から排便状況の確認を行い便秘傾向にある人にはかかりつけ医と相談して緩下剤を処方してもらっている。		できるだけ自然排便に繋がるように散歩などの運動や水分摂取量の増加などへの取り組みを継続していきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きや義歯の手入れなど声かけや見守りによって行っている。義歯は週2回洗浄剤に浸けている。必要に応じて家族と相談して歯科往診を依頼している		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に食事摂取量の少ない時には、水分摂取量や食事量を記録し好みの物を勧めたり工夫をしている		健康状態を把握しながら楽しみのある食事 水分摂取ができるよう取り組んでいきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	情報を敏感にキャッチし感染症マニュアルに沿って行っている。特に手洗いうがいの徹底するよう努力している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食器などは乾燥機を使用し、布巾や生ゴミの処理については取り決めをしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節の花を植えたりベンチを置いたり立ち止まって話ができるようにしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンからはご飯の炊ける匂いや調理の匂いがある。2Fの天窓から採光を取り入れているが時には眩しすぎる事もあり簾をかけた工夫をしている。職員の声のトーンには気をつけている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外でも居室前のベンチ、玄関前のベンチや畳コーナー、ソファなどで自由に過ごしている		友達や職員、家族と共に気に入った場所で一緒に過ごしたり一人で過ごす時間を大切にしたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使っていた馴染みの筆筒やベッドなどを持ち込み 出来るだけ自宅とのギャップが少ないように可能な限り使い慣れた物を置くように依頼している</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>エアコンや加湿器などで温度湿度の調節やベランダの窓の開閉等にて自然の空気の入替えなども小まめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個人レベルに合わせて、車椅子 歩行器 老人車などを使用し、見守りを中心に安全に自立した生活が送れるようにしている。浴室も手すりの位置の変更し自身の持てる力を出せるようにしている</p>		<p>ADLの低下が徐々に見られるようになってきているが、自身の持てる力が発揮できるようにしていきたい</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居当初には自室が分かるように名前や絵などを張ったり トイレへの目印を付けているが 繰り返しの誘導や言葉がけによってわかるようになってくればそれらを徐々に外し一般的な空間づくりをしている</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関前にベンチが置いてあり おしゃべりが出来たり洗濯を干している。リビングの前には、家族と共に花を植えたり 菜園には季節のものを植えたりしている</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
-----	---------------------------------	------------------------	----------------------------------

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれ、公園にも隣接しており日々の暮らしの中で散歩や外気浴が気軽にできている。ボランティアによるコーラス、社交ダンス、水彩画、書道教室、ドッグセラピーや音楽療法など入居者の希望を尊重しながら自由参加できるように月単位で計画をしている。入居者の一日の流れを通し継続したケアをしていく為に正職員の採用を多くし、安全と自由な暮らしの両側面を意識しながら支援を行っている。